

実践報告 (Report)

保育者・教師養成課程で学ぶ学生の「将来に役立つ 学びの促進」を目指した授業の試みについて(2)

——「手書き A3 課題」を授業に活用することの意義——

**An attempt in class to enhance learning for the future of the
students in the training course of nursery and elementary
school teacher (2): the meaning of introducing “handmade
A3 task” into the lesson**

服部 次郎*
HATTORI, Jiro*

キーワード：将来に役立つ学習，手書き A3 課題，発表体験

Key words：Enhancing Learning for the future, Preparatory Task (Handmade A3Task),
Experiences of Presentation

1. 研究の背景と目的

大学改革が求められるなかで，文部科学省・中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」は未来を展望し，そこで「必要とされる人材と高等教育の目指すべき姿」を描き出している。これに関連して最近，アクティブラーニングが注目され，推奨されている。この点について，オックスフォード大学の荻谷教授は，日本経済新聞（2019年4月1日付朝刊）の投稿記事で「昨今流行の『アクティブラーニング』は，一見具体的手段の提示のように見える（中略）。学生の参加を求める，小集団での協同学習を進める手法が提唱されるが，学習の外形が活発であることと，実際にそこでいかなる資質が育成されるかの間に，明確な因果関係を想定できない。」と述べ，アクティブラーニングの効果についての十分な検証と丁寧な説明が必要であるとしている。また教科書のデジタル化については，文科省は2015年からデジタル教科書の位置づけに関する検討会議を立ち上げ，検討した結果，（中略）デジタル教科書は，健康面への影響が出る可能性も指摘されているとして，ガイドラインでは，紙の教科書のような使用義務づけはせず，各教科の授業時間の2分の一未満の使用に限定している，とある（朝日新聞 2019年3月31日付朝刊）。

このような状況を念頭におき，大学における授業のあり方についても考えてみたい。筆者は，IT 機器が多用される現代において，便利さの故に学生の潜在的能力がそこなわれることがないようにするための学習手段のひとつとして，与えられた課題に対して学生自らが「手書き」で取り組む学習法の効果を探求してきた。AI（人工知能）やIT技術の著しい進歩に代表されるような移り変わりの激しい現代においても自分の持てる力を最大限発揮し工夫して問題解決ができる人材の育成をしたいからである。そのため大学の授業等においても深めてほしいテーマについて，初めに学生

に課題を与え、次にその課題について調べ学習をさせ、時間が許せば、テーマについてグループで意見交換をした後に、まとめの発表をクラスでさせた。その後、学習成果を各自で A3 用紙 1 枚（表裏利用）に「手書き」でまとめさせるという学習法（以下 A3 課題と呼ぶ）を実践してきた（服部 2014a, b；服部 2015）。この実践により、これまで筆者は学生の「学びの主体性」を育てることができたと判断してきた（服部 2014a）。しかし継続的に研究していくと、学生の学習環境や学生自身の考え方の変化もあるためか、最近の筆者の研究調査結果においては、手書き A3 課題が必ずしも「学びの主体性」を高めるとは言えないという否定的な統計的結果が出た（服部 2018）。その一方で、学生の自由記述を読んでもみると、A3 課題に取り組むことの意義として、「深い学びにつながる」、「学習の定着に効果がある」、「将来の自分の仕事のためになる」などというものが見られた。このため、A3 課題に取り組むことの意義をこれまでのような「学びの主体性」という視点だけに限定するのではなく、より広い視点から再検討してみることにした。今回は、これまでに明らかになった結果に継続性が認められるかを確認するため、先回と同様に 6 つを仮定し検証する。またいかなる資質が育成されるかについても検討した。

1. A3 課題に取り組む、まとめることは、「自分の将来の仕事」に役に立つ
2. A3 課題に取り組むことは、「自分自身の学び」において役に立った
3. A3 課題作成の際に、パソコン等の機器ではなく、「手書きで課題を作成すること」は「自分自身の学び」において効果があった
4. A3 課題において、「キャラクターも含めた図等を活用すること」は、「自分自身の学び」において効果があった
5. A3 課題作成において、「選択肢（テキストのまとめか、教材「光とともに」のまとめか）があること」は、課題に積極的に取り組む上で効果があった
6. A3 課題作成のため、討論・まとめ・発表などを行うことは、作成上効果があった

2. 研究の方法

アンケート用紙（資料 1：改訂版）を作成し、筆者の授業「障害児保育」（3 年生後期科目）を受講する保初 3 年生の全学生 81 名（用紙提出者も 81 名）を対象に実施し、仮定の妥当性を検討した。アンケートの各設問については、5 つの選択肢を設け、5 段階評価を採用し、選択肢 5 には 5 点、4 には 4 点、3 には 3 点、2 には 2 点、1 には 1 点を付与した。

3. 結果 (2019年度 対象者 3年 障害児保育 のデータ 81名分)

問1 今回実施した A3用紙により課題に取り組み、まとめることは、自分の将来の仕事に役に立つと思いますか。(％の数値は、小数点以下四捨五入)

| 5 とても 役に立つ | 4 ある程度 役に立つ | 3 どちらとも いえない | 2 あまり 役に立たない | 1 まったく 役に立たない |
|------------------|-------------------|--------------------|--------------------|---------------------|
| 20名 (25%) | 48名 (59%) | 13名 (16%) | 0名 (0%) | 0名 (0%) |

A3課題が「役に立つ」とする学生が84％いる一方で、「役に立つ」とは考えていない学生も16％存在した。5段階評価で、平均値は4.1であった。

問2 A3用紙により課題に取り組むことは、自分自身の「学び」において、どの程度、どのような点で役に立ったと思いますか。

| 5 とても 役に立った | 4 ある程度 役に立った | 3 どちらとも いえない | 2 あまり役に 立たなかった | 1 まったく役に 立たなかった |
|-------------------|--------------------|--------------------|----------------------|-----------------------|
| 18名 (22%) | 48名 (59%) | 15名 (19%) | 2名 (3%) | 0名 (0%) |

自分自身の「学びに役に立った」する学生は81％、「役に立ったとはいえない」とする学生が19％という結果で、5段階評価で平均値は4.0であった。

問3 今回の「手書き A3課題」作成の際に、パソコン等の機器ではなく、手書きで課題を作成することは自分自身の「学び」において、どの程度、またどのような点で効果があったと思いますか。

| 5 とても あった | 4 ある程度 あった | 3 どちらとも いえない | 2 あまり なかった | 1 まったく なかった |
|-----------------|------------------|--------------------|------------------|-------------------|
| 16名 (20%) | 45名 (56%) | 19名 (23%) | 1名 (1%) | 0名 (0%) |

「A3課題」作成の際に、手書きで課題を作成することが「自分自身の学びにおいて効果があった」とした学生は76％、一方「効果があったとはいえない」とする学生が24％という結果で、5段階評価で、平均値は3.9であった。

問4 「調べ学習」をする際に用いた「手書き A3課題」において、キャラクターも含めた図等を活用することは、自分自身の「学び」において、どの程度、どのような点で効果があったと思いますか。

| | | | | |
|-----------------|------------------|--------------------|------------------|-------------------|
| 5 とても あった | 4 ある程度 あった | 3 どちらとも いえない | 2 あまり なかった | 1 まったく なかった |
| 13名 (16%) | 39名 (48%) | 27名 (33%) | 2名 (3%) | 0名 (0%) |

「学びにおいて効果があった」とする学生は64%、「効果があったとはいえない」とする学生が36%で、5段階評価で、平均値は3.8であった。

問5 A3課題作成において、選択肢（テキストのまとめか、教材「光とともに」のまとめか）があったことで課題に積極的に取り組む上で効果があったと思いますか。

| | | | | |
|-----------------|------------------|--------------------|------------------|-------------------|
| 5 とても あった | 4 ある程度 あった | 3 どちらとも いえない | 2 あまり なかった | 1 まったく なかった |
| 27名 (34%) | 37名 (45%) | 17名 (21%) | 0名 (0%) | 0名 (0%) |

選択肢があったことで「A3課題に取り組みやすくなった」とする学生は、79%、「取り組みやすくなったとはいえない」という学生が21%で、5段階評価で、平均値は4.1であった。

問6 A3課題作成のため、討論・まとめ・発表などを行うことは効果があったと思いますか。

| | | | | |
|-----------------|------------------|--------------------|------------------|-------------------|
| 5 とても あった | 4 ある程度 あった | 3 どちらとも いえない | 2 あまり なかった | 1 まったく なかった |
| 17名 (21%) | 39名 (48%) | 21名 (26%) | 4名 (5%) | 0名 (0%) |

「効果があった」とする学生は69%、「効果があったとはいえない」とする学生が31%という結果で、5段階評価で、平均値は3.9であった。

次に、上記の結果に関連して、学生の自由記述の一部を紹介しておく。問1の学生の記述を大きく分類すると、ひとつは「重要なところのみを抜き出してまとめる能力がついていると学級通信などを書くときに役に立ちそうだから」など、保育・教育現場での通信・お便りや記録作成に役立ちそうであるという内容であり、もう一方では「キーワード等（によるまとめで：筆者補足）大切なことが整理できたため、障害児や気になる子と遭遇したときのアンテナになると思う」という記述に代表されるように、将来現場で出会うであろう児童、特に障害児への対応を考える際に役立ちそうであるという内容であった。

問2の学生の記述には、A3課題を作成することは、授業や内容の振り返りをしたり、まとめをしたりするため、より深く記憶に残り、学びが深まり役に立った、という記述がみられる。さらに、A3課題を作成するためには、内容をまとめるために多くの情報からポイントを絞ることが必要で、これにより「分析する力」、「要約する力」が身につくという記述も多くみられた。

問3の自由記述には、手書きでの課題作成は、「内容が頭に入りやすい」、「学びが定着し深まる」、「工夫する力・内容を見やすくまとめる力が育つ」、「大変だが、相手に伝わるものが生み出せ、思い入れができる」、「温かみ、達成感、満足感を生む」、「絵が上手くなり、保育現場で子どもにも好評であった」、「描くことが楽しくなった」などとあり、これらが効果のあったとした理由としてあげられた。

問4に対する自由記述には、効果があったとした理由として「自分のオリジナルのものができて、達成感があった」、「絵を上手くかこうという意識が高まった」、「自分の好きなもので描くことで楽しく学ぶことができる」、「(今はワープロでの課題が多い：筆者補足)他の授業でこのようにイラストを描いたり、色を塗ったりする機会がないので、良い経験になった」などという記述があげられており、オリジナルのものができることでの達成感、上手く描こうという意欲、そして好きなものを描くことで楽しく学べること、他の授業では機会がないので良い経験になった、などがあげられている。

問5で効果があったとした理由としては、「どちらが自分のやりたいことか考え、やりたいことは積極的に取り組むことができたから」や「物語(『光とともに』)は頭に入りやすかった。選択肢があるとやる気がでる」、「選択して書くことで、書きたいことが書けて楽しく取り組めた」などという記述がみられ、選択肢があることで、やる気が出て、積極的に取り組めた、楽しく取り組めた、というものがあげられた。

問6の自由記述には、効果があったとした理由として、以下のようなものがみられた。「他の学生の意見を聞くことにより、自分自身の視野が広がったり、いろいろな人の立場に立って考えることの大切さを学ぶことができたから」、「自分が担当した事項は特に力を入れて調べたり、みんなに伝わるように工夫して発表する準備をしたから」、「ただ聞いて書くだけでなく、発表したり討論することで自ら調べようと思う機会が出来たから」、「自分で主体的に取り組めることで、より学びが深まる」、「主体的に授業参加できました」。このように、自分自身の視野が広がること、受け身ではなく、自分で調べようと課題に主体的に取り組む、また主体的に授業に参加し、学びが深まることなどが効果としてあげられている。

4. 考察

仮定の1「A3課題に取り組み、まとめることは、『自分の将来の仕事』に役に立つ」については、平均値が4.1あり、84%の学生が役に立つとしており、支持されたと考

える。

今回の自由記述には、障害児や気になる子がクラスにいた場合に A3 課題作成が役に立つという記述が多かった。その一因として、2 年次実施のアンケート調査（科目：社会的養護）と比較してみると、3 年次のアンケート調査を実施した科目が障害児保育であったということも影響していると考えられる。学生の記述には、卒業後の職場（現場）で通信・お便りや記録作成において、また担当する児童、特に障害のある児童への対応において役立ちそうであることが述べられている。これは、自分が将来担当するであろう現場で効果的に対応できるようになりたいという思いの表れであると考えられる。このような思いは、デシとフラスト（1999）の「人格心理学者のロバート・ホワイトが『有能感（コンピテンス）の概念』に関する重要な論文を発表した。その中で彼は、人は環境と効果的にかかわり有能でありたいという気持ちを強烈にもっており、コンピテンスは人間の基本的な欲求であると主張した。」（p. 88）という記述にも通じるもので、自分の置かれた環境（保育・教育現場等）において、有能でありたいという強い気持ち（有能感）の表れと考えられる。

仮定の 2「A3 課題に取り組むことは、『自分自身の学び』において役に立った」についても平均値が 4.0 あり、81% が役に立ったとしており、支持されたものと考えられる。学生の記述によれば、A3 課題を作成することで、授業内容をより理解でき、学びが深まり役に立った、としている。さらに、A3 課題を作成することで、より一層「分析する力」、「要約する力」が身につくという記述も多かった。この際に、既成の概念等ではなく、「自分の言葉でまとめる」という点が重要と考えられる。「自分で調べながらまとめる」、「自分のことばに置き換えてまとめる」、「自分の手で書いている」、「製作時間をかける」等、自分が時間をかけ、自分のことばを使い、自分の手で書くといった具合に、「自分が深く関わるような行動」をすることが、理解を深め、内容も自然に頭に入ることにつながるものと考えられる。また、「まとめて書く必要があった」ことについては「ポイントを絞って分析する力を身につける点で役立った。」とあるように、必要性こそが能力を高める上で大切とも考えられる。さらに、製作時間をかけるほど、自分のものに愛着ができて、ながめて、何度も見てしまうので、理解がしやすい、という結果を生み出しているともいえる。ここでも、デシとフラスト（1999）の「人はみな自己原因性を求めている。つまり、人は自分自身の行動の源泉でありたいと願っている（中略）人には、自分の自律性あるいは自己決定の感覚——ド・シャームが自己原因性と呼んだ感覚——を経験したいという生得的な内発的欲求があると思われる。」（pp. 39-40）という記述にある、『自分自身が行動の源泉でありたいという欲求』が A3 課題に取り組むことにより実現され、結果として、学びに役立ったと感じさせているものと考えられる。

仮定の 3 については、平均値が 3.9 で、76% の学生が効果ありとした。やや支持の度合いは下がるが、一定の効果はあったと考える。効果のあった理由として、手書きでの課題作成は、「内容が頭に入りやすい」、「学びが定着し深まる」、「工夫する力・

内容を見やすくまとめる力が育つ」、「大変だが、相手に伝わるものが生み出せ、思い入れができる」、「温かみ、達成感、満足感を生む」、「絵が上手くなり、保育現場で子どもにも好評であった」、「描くことが楽しくなった」などがあげられた。

さらに仮定の4に対しては、効果があったとした学生は64%、平均値は3.8で、支持の割合はやや低かった。効果があった理由として、「自分のオリジナルのものができて、達成感があった」、「絵を上手にかこうという意識が高まった」、「自分の好きなもので描くことで楽しく学ぶことができる」、「(ワープロでの課題が多い：筆者補足)他の授業でこのようにイラストを描いたり、色を塗ったりする機会がないので、良い経験になった」などがあげられており、オリジナルのものができることでの達成感、上手く描こうという意欲、そして好きなものを描くことで楽しく学べること、他の授業では機会がないので良い経験になった、などという点で、効果があったとしている。

このように、仮定3・4に見られる学生の記述はまさに、デシとフラスト(1999)の『『できる』という感覚が、内発的動機づけと外発的動機づけの両方にとって重要である(中略)内発的動機づけがもたらす『報酬』は、楽しさと達成の感覚であり、(中略)。』(pp. 86-87)という記述につながるものといえる。ここで最も強調されるべきは、『できる』という感覚が「楽しさと達成の感覚」を生み出すということであると考えられる。

仮定の5「A3課題作成において、選択肢(テキストのまとめか、教材『光とともに』のまとめかの選択)があったことで課題に積極的に取り組む上で効果があったと思いますか」に対して、効果があったとした学生は79%、平均値は4.1あり、仮定は支持されたと考える。効果があった理由としては、「どちらが自分のやりたいことか考え、やりたいことは積極的に取り組むことができたから」や「物語(『光とともに』)は頭に入りやすかった。選択肢があるとやる気がでる」、「選択して書くことで、書きたいことが書けて楽しく取り組めた」などと、選択肢があることで、やる気が出て、積極的に取り組み、また楽しく取り組むことができたと考えられる。デシとフラスト(1999)は、「内発的動機づけを高める要因とはどのようなものか」(p. 43)を考えるために実験を行っている。その結果、「ポイントは、意味のある選択が自発性を育むという点にある。人は、自ら選択することによって、自分自身の行為の根拠を十分に意味付けることができ、納得して活動に取り組むことができる。同時に、自由意志の感覚を感じることができ、疎外感が減少する。しかも、もし選択の機会が提供されるならば、人々は自分たちが一人の人間として扱われていると感じる。このように、選択の機会を提供することによって、問題をうまく解決することができるのである。」(p. 45)と述べている通りで、選択肢があったことの効果が表れたものと解釈できる。

仮定6の「A3課題作成のため、討論・まとめ・発表などをするのは効果があった」については、「効果があった」とする学生は69%で、平均値は3.9で、高いとは

いえないが、一定の支持はあったと考える。効果があった理由については、グループでの討議・まとめ・発表という過程を経ることで、自分自身の視野が広がること、受け身ではなく、自分で調べようと課題に主体的に取り組み、また主体的に授業に参加し、学びが深まることなどがあげられている。この点に関して、鷲尾（2012）は、「グループ学習によって（中略）テーマへの興味が芽生え、活動への意欲が高まり、自ら学習を進める学習姿勢が生じる。その結果を他者や他のグループに発表したり、発表を聞いたりすることで学習を振り返り、テーマに関する知識を深めて、学習終了後の達成感とその分野への興味関心が高まり、次なる学習につながっていく。」と述べて、グループ活動の効果を報告している。

また川野（2016）は、「グループ討論における『深い理解』については、自らがその課題に取り組むことが前提であるが、自分の学習内容を発表すること、仲間との討議・協議や話し合いをすることなどを通して深まるものである。仲間と協同学習を行うことで、相手の話を傾聴し、新しい視点や今まで考えなかったことに気付くこともある。」と述べ、本研究と同様の効果がグループ討論に認められるとしている。

以上のように、今回の研究では6つの仮定のうち、(1) (2) (5) がアンケート調査結果を通じて強く支持され、(3) (4) (6) は一定水準支持されたと考える。今回は先回の調査時に2年生であった対象者が3年生になった時に、異なった科目においても、同様の結果を示すかどうかを追跡調査したが、一定の継続性が認められたと考える。今後も、授業における手書き A3 課題の意義やその効果あるいは限界について検討していきたい。

謝 辞

本研究をまとめるにあたり、査読の上、ご指導をいただきました本学教育学部准教授の野崎健太郎博士に対し、心より感謝いたします。また授業において本研究を進める上で協力をしていただいた学生の方々にもお礼を申し上げたいと思います。

■引用・参考文献

- エドワード・L・デシとリチャード・フラスト：『人を伸ばす力—内発と自律のすすめ—』監訳：桜井茂男 新曜社（1999）。
- 川野司：「アクティブラーニングとして討論を取り入れた授業の有効性」九州看護福祉大学紀要，17：47-59（2016）。
- 鈴木京子：「Web 教材開発における学びの仕掛けとは何か—中学数学・授業研究からの示唆—」日本教育情報学会第20回年会要旨集 pp. 132-133（2004）。
- 竹中晃子：「生化学特論（専攻科）における授業方法改変の試み」名古屋文理短期大学紀要，25：103-103（2000）。
- 服部次郎：「保育者・教師養成課程における初年次教育としての施設（学校）見学を充実させる事前・事後学習の実践(3)—事前指導でのテーマや事後指導での討論に注目し、学生の主体的学びの促進を目指した改訂版「施設調べ」の試み—」椋山女学園大学教育学部紀要，7：187-208（2014a）。

服部次郎：「A3用紙という空間を通じて」梶山女学園大学FD委員会活動報告書，14：47-48 (2014b)。

服部次郎：「保育者・教師養成課程における初年次教育としての施設（学校）見学を充実させる事前・事後学習の実践のその後の専門教科への影響について—学生の主体的学びの促進を目指した授業での試み—」梶山女学園大学教育学部紀要，8：179-192（2015）。

服部次郎：「保育者・教師養成課程で学ぶ学生の主体的学び（学びの主体性）の促進を目指した授業での試みについて(3)—「手書き A3課題」を授業に3年継続することの意義とその限界—」梶山女学園大学教育学部紀要，11：159-203（2018）。

鷲尾敦：「グループ学習の効果をあげるためのグループ作り」高田短期大学紀要，30：55-55（2012）。

資料1（記述スペースは削除）

科目（障害児保育）3年前期

授業改善とそのための実践研究に向けたアンケートへの協力依頼

2018年1月26日 服部次郎

問1 今回実施したA3用紙により課題に取り組み、まとめることは、自分の将来の仕事に役に立つと思いますか。（一番近い番号に○をつけてください）

| | | | | |
|-------|-------|-------|----------|----------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| とても役に | ある程度 | どちらとも | あまり | まったく |
| 役に立った | 役に立った | いえない | 役に立たなかった | 役に立たなかった |

（5・4に○の場合はその理由／例：どんな時、どんな形で役立ったかなど、具体的に記述してください）

問2 A3用紙による課題に取り組むことは、自分自身の「学び」において、どの程度、どのような点で役に立ったと思いますか。

| | | | | |
|-------|-------|-------|----------|----------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| とても役に | ある程度 | どちらとも | あまり | まったく |
| 役に立った | 役に立った | いえない | 役に立たなかった | 役に立たなかった |

（5・4に○の場合はその理由／例：どんな時、どんな形で役立ったかなど、具体的に記述してください）

問3 今回の「手書きA3課題」作成の際に、パソコン等の機器ではなく、手書きで課題を作成することは自分自身の「学び」において、どの程度、またどのような点で効果があったと思いますか。

| | | | | |
|--------|------|-------|------|------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| とてもあった | ある程度 | どちらとも | あまり | まったく |
| | あった | いえない | なかった | なかった |

（5・4に○の場合はその理由／例：どのように効果があったかなど、具体的に記述してください）

問4 「調べ学習」をする際に用いた「手書きA3課題」において、キャラクターも含めた図等を活用することは、自分自身の「学び」において、どの程度、そのような点で効果があったと思いますか。

| | | | | |
|--------|------|-------|------|------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| とてもあった | ある程度 | どちらとも | あまり | まったく |
| | あった | いえない | なかった | なかった |

（5・4に○の場合はその理由／例：どのように効果があったかなど、具体的に記述してください）

問5 A3課題作成において、選択肢（テキストのまとめか、教材「光とともに」のまとめか）があったことで課題に積極的に取り組む上で効果があったと思いますか。

| | | | | |
|--------|------|-------|------|------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| とてもあった | ある程度 | どちらとも | あまり | まったく |
| | あった | いえない | なかった | なかった |

問6 A3課題作成のため、討論・まとめ・発表などを行うことは効果があったと思いますか。

| | | | | |
|--------|------|-------|------|------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| とてもあった | ある程度 | どちらとも | あまり | まったく |
| | あった | いえない | なかった | なかった |

(5・4に○の場合はその理由／例：どのように効果があったかなど、具体的に記述してください)

(個人の名前が出ることはありませんので、大学における授業の改善のため、私の研究テーマ「学びの主体性」のため、ご協力いただけるとありがたいです。)

資料2（自由記述の後の番号は資料番号である）2019年度用基礎資料

問1 今回実施した A3用紙により課題に取り組み、まとめることは、自分の将来の仕事に役に立つと思いますか。

- ・実際に障害児が担当クラスにいた時に、保育者としてどのように対応すれば良いのか参考でできると思ったから。13
- ・もし自分のクラスに障害のある子がいた場合に、どのように対応すればいいのか参考になると思うから。6
- ・もし自分が教師になった時のクラスに学習障害の児童がいたら、自己肯定感が育つように対応しようと学べたから。80
- ・現在の保育園は気になる子の受け入れをしているため、学べて勉強になった。72
- ・キーワード等（によるまとめで：筆者補足）大切なことが整理できたため、障害児や気になる子と遭遇したときのアンテナになると思う。43
- ・手書きでお便りを作成するさいなどに、どんなレイアウトにすればよいかなど、すぐに思いうかぶようになった。25
- ・小学校の授業で子どもに見本を提示するときに見やすい見本を作れると思う。1
- ・絵を描くことや、配置は、園だよりを作るのに役立つと思う。また、事実をまとめる作業は記録として役立つと思うから。4
- ・絵の位置や見やすさ、分かりやすさを考えて取り組むことで、（園の）お便りなどに役立ちそうと思ったから。10
- ・重要なところのみを抜き出してまとめる能力がついていると学級通信などを書くときに役に立ちそうだから。65
- ・保育では手書きでまとめたりすることもあるので、イラストなどで書くことはとても役に立つと思う。64

問2 A3用紙による課題に取り組むことは、自分自身の「学び」において、どの程度、どのような点で役に立ったと思いますか。

- ・教材を見て振り返った時に、それぞれの登場人物の心情や態度などをまとめることで、一人ひとりにどのような対応をするべきか考えることができたから。13
- ・障害をもっている、対応次第で出来ることは沢山あると学べたから。80
- ・授業の内容を振り返ることができ、より深く記憶に残り学ぶことができた。15
- ・授業でやったことを振り返る機会となり、より学びが深まった。64
- ・もう一度まとめることで内容の理解が深まった。81
- ・授業を受けっぱなしで終わるのではなく、もう一度復習するのの良い機会だった。39
- ・A3を書くときに教科書を読んで内容を理解してから書いたの、2度勉強ができる。44
- ・まとめて書く必要があったので、ポイントを絞って分析する力を身につける点で役立った。1
- ・まとめる力、多くの情報からの的確にまとめる力がつく。41
- ・あらためて（教材）ビデオの内容を振り返り、自分の言葉でまとめたので、要約する力が少しはついたと思う。5

問3 今回の「手書き A3課題」作成の際に、パソコン等の機器ではなく、手書きで課題を作成することは自分自身の「学び」において、どの程度、またどのような点で効果があったと思いますか。

- ・手書きの方が温かみがあるし、達成感や満足感が得られた。1
- ・レポートというと、パソコンで書く機会が多いが、手書きで作成することにより表現をより工夫することができる。17
- ・パソコンで打つよりも、手を動かして書くことで、さらに学びが深まる。10

- ・手で書く方が覚えることができ、ずっと記憶に残る。50
- ・字を書く機会が減っているので、漢字や言葉をあらためて確認したり、絵を描いたりし、能力の向上につながった。15
- ・自分の手で文字におこすことで、どのくらいの文字の大きさがよいかなど、考えられるようになった。25
- ・実際に書くことでインプットしやすいし、まとめ方や色の塗り方等、様々な面での工夫の余地があった。43
- ・自分の文字でまとめることで頭に内容が入ってきやすいと思ったから。72
- ・見たいと思うように、イラストを描いたり、レイアウトを考えたり、構成を考えることはあまり機会がないので、学びになった。18
- ・どんな構造でどうやってまとめたら、読みたくなるようなA3がつくれるか考えることができた。73
- ・イラストが書けるので、視覚的にもわかりやすい。絵がうまくなった。保育の現場で子ども達にキャラクターを書いたら好評だった。9
- ・図や絵と共に文字を使い、見やすくまとめる力がついた。66
- ・絵を描くのが楽しかった。4
- ・絵が上手くなった。65
- ・自分の好きなようにレイアウトすることができ、工夫し、行きあたりばったりな作品にならなくなったから。5
- ・分かりやすくまとめる力が身についた。沢山ある分の中からキーワードとなる点を見つけ出す力が身についた。39
- ・大変だけど、相手に伝わると思うし、自分の個性が出る。68
- ・丹精をこめて作ったので思い入れができた。70

問4 「調べ学習」をする際に用いた「手書きA3課題」において、キャラクターも含めた図等を活用することは、自分自身の「学び」において、どの程度、そのような点で効果があったと思いますか。

- ・将来、保育者になった時にもキャラクターや図を書く機会はたくさんあると思うので、活用していけると感じたから。13
- ・あまり、キャラクター（アンパンマンなど）にこだわらず、自分のオリジナルのものができて、達成感があった。4
- ・私は絵を描くのが苦手なので、他の人の絵を見たりして真似をして少しずつ上達していると思う。18
- ・（ワープロでの課題が多い）他の授業でこのようにイラストを描いたり、色を塗ったりする機会がないので、良い経験になった。39
- ・絵を上手くかこうという意識が高まった。68
- ・自分の好きなもので描くことで楽しく学ぶことができる。81
- ・絵を書くことが苦手だったがA3をやることでだんだんと書くコツをつかんできた。4
- ・色の配色なども含めどうしたら分かりやすくまとめられるのか考えることができた。18

問5 A3課題作成において、選択肢（テキストのまとめか、教材「光とともに」のまとめか）があったことで課題に積極的に取り組む上で効果があったと思いますか。

- ・どちらが自分のやりたいことか考え、やりたいことは積極的に取り組むことができたから。5
- ・物語は頭に入りやすかった。選択肢があるとやる気がでる。41
- ・選択して書くことで、書きたいことが書けて楽しく取り組めた。1
- ・好きな方を選べるということでやる気はあがる。18

問6 A3課題作成のため、討論・まとめ・発表などを行うことは効果があったと思いますか。

- ・他の学生の意見を聞くことにより、自分自身の視野が広がったり、いろいろな人の立場に立って考えることの大切さを学ぶことができたから。13
- ・討論をすると色々な視点を知ることができ、自分が考えつかなかった、スルーしてしまった考えを認識することができるから。1
- ・(ビデオ教材の中の) 同じセリフについても他の子の意見を聞いてなるほどと思ったり、自分では気付かなかったポイントが分かった。2
- ・他人の意見をきくことで、自分の考えをより深めたり、新しい意見に出会うことができたから。5
- ・自分が担当した事項は特に力を入れて調べたり、みんなに伝わるように工夫して発表する準備をしたから。6
- ・ただ聞いて書くだけでなく、発表したり討論することで自ら調べようと思う機会が出来たから。78
- ・自分で主体的に取り組めることで、より学びが深まる。10
- ・主体的に授業参加できました。68
- ・自分なりに理解し、それをまとめ、人に伝えようという行為は、これから先の将来に役に立つと思うのでよかった。73
- ・他人が理解できるように説明しようという意識がもてたから。80